



■ 津久見～保戸島航路 お問合せ先  
津久見市保戸島航路事務所 (TEL 0972-83-5454)  
料金 (大人 片道880円・小人 片道440円)

■ 所要時間  
福岡IC～津久見IC 2時間30分 / 小倉東IC～津久見IC 2時間 / 大分IC～津久見IC 25分

津久見市観光協会

〒879-2441 大分県津久見市中央町1番30号  
TEL / 0972-82-9521 FAX / 0972-82-7106  
https://tsukumiryoku.com



※掲載内容は2023年3月現在のものです。

お食事処  
津久見市 津久見港 津久見港  
TEL 0972-87-2024  
11:00-13:00 17:00-21:00  
大分県 津久見市 津久見港

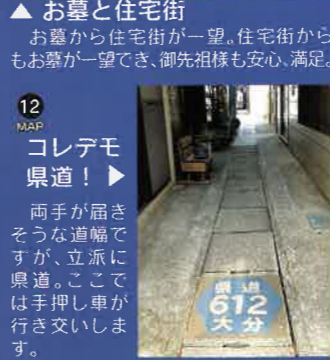


保戸島ウォーキングマップ



保戸島のさすが!

保戸島の日常的非日常



触れる保戸島



「保戸島」という名の由来

津久見から佐伯にかけての海部郡を、昔は「穂門郷(ほとのごう)」と呼んでいました。景行天皇がこの港に船を泊めた時、海底の大そう美しい海藻に気づき「最勝海藻(ほつめ)を取れ」といわれたとか。「ほつめ」という音が「ほど」という音にかわり、現在、保戸島の名に残ったといわれています。

柳田國男の「海南小記」

民俗学者の柳田國男は、大正10年(1921年)沖縄を目指す旅で、保戸島で2日間を過ごしています。その時の様子が「海南小記」の「穂門の二夜」に描かれています。島には人口の多かった保戸島で、お互い寝る場所を島全体で融通しあう様子に、「つまり島一つが大家内のやうなものだ」と記しています。確かに、現在でも島民はよく挨拶を交わし、まるで皆が親族・家族のようです。

保戸島の「まぐる」

保戸島といえば、「まぐる」。一時は漁船167隻、まぐる漁従事者1,000人という時代もありましたが、最近、まぐる漁の取りまく環境はきびしく、現在は13隻、従事者130人。しかも半数以上は東南アジアの人たちです。保戸島の先人たちが、力を合せ漁場を開拓してきた「保戸島のまぐる漁」。次の時代を見据えた漁が求められています。

保戸島の祭り



保戸島小学校爆撃の悲劇

